ルーブリックを用いた介護実習評価の開発と妥当性の検討

○　城西国際大学　　林　和歌子（005062）
大内　善広（城西国際大学・008397）

キーワード：介護実習　評価　ルーブリック

１．研 究 目 的

わが国の高等教育政策の焦点は近年「学生が何を学んだのか」へと移り、学習成果として評価することが不可欠であり（松下，2012)、その教育に対する評価方法が検討されている。教育評価とは「目標に準拠した評価」「到達度評価」の両方を指すが（田中，2007)、教育評価の対象となる学力・知識・スキル・態度は筆記試験、実技試験等の間接的な測定に委ねるしか方法がない。それゆえ、学習成果を客観的・正確に把握するためには、評価方法の妥当性・信頼性が重要であることが指摘されている。(村山，2006)

福祉専門職養成における実習評価は、支援・援助の内容が対象の状況に依存していることや、多岐にわたるスキルの獲得が必要であることなどから、学習成果の数値化が困難であり、学生が身につけた力を明確に測る評価法が確立されていない。福祉領域の養成校はさまざまな手立てを講じつつも（津田，2009、江原，2014、伊澤，2015、工藤，2015、橋本，2016 など)、学生が身につけた力を明確に測る評価法を持てずに現在に至っている。

そこで介護実習の目標に即した学習課題に対し、ルーブリックを用いて適切に到達度を評価する基準を試作し、その妥当性を検討することを本研究の目的とする。

２．研究の視点および方法

（１）実施日

2016 年度介護実習（介護実習 1：2 月、介護実習Ⅱ、Ⅲ2 月～3 月）終了後の評価採点時。

（２）調査対象・方法

調査対象は 2016 年度本学介護実習を受け入れた施設のうち、2016 年 3 月 9 日に実施した介護実習意見交換会に出席した 11 施設の実習指導者である。評価対象学生は 23 名である。

調査方法は、同一人物に対する二通りの評価の実施である。まず実習指導者に対し、実習終了後の評価採点時に、従来通りの評価方法で評価をおこなった。その後、「評価対象となる実習生の行動・態度」を検討して作成したルーブリック評価指標案を用い、同一実習生に対して再度評価を行うよう実施を依頼した。

評価指標は次の 15 項目である。(1) 利用者との関係作りができる (2) 個別ニーズ把握ができる (3) 利用者の個性及びその人の生活環境に対応した、日常生活に関する介護技術を習得している (4) 介護記録が書ける (5) 介護職員の役割がわかる (6) 自己の役割を自覚して、他の職種と協働できる (7) 情報の解釈、統合化を行い、ニーズを明確にすること

ができる（8）長期目標・短期目標を適切に設定し、介護計画が立てられる（9）介護計画にそって実施し、評価ができる。(10) 施設が地域に果たしている役割がわかる(11)守秘義務を理解し、行動がとれる(12)礼儀を理解し、マナーを守れる（13）積極性のある行動ができる（14）協調性のある行動ができる（15）責任感のある行動ができる

（３）分析方法

同一実習生に対して「従来通りの評価方法でつけた評価」結果と、「ルーブリック評価指標案を用いてつけた評価」結果について平均値及び相関分析を行った。

３．倫理的配慮

日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守した。また、調査を行うに当たり実習指導者に対し、研究目的・方法、結果データの取り扱い、個人情報の保護、自由意思による参加等について説明をおこない、同意を得たうえで行った。

４．研 究 結 果

15 項目の評価指標に対して, 従来通りの評価方法による点数とルーブリック評価指標案に基づく点数の平均値および相関係数を算出した（Table 1)。

Table 1　15項目の評価指標における平均得点と相関係数

	指標(1)	指標(2)	指標(3)	指標(4)	指標(5)	指標(6)	指標(7)	指標(8)
従来(平均)	3.32	2.77	2.73	3.00	3.32	2.73	3.25	3.00
ルーブリック(平均)	3.09	2.82	2.73	3.05	2.77	2.50	3.13	2.69
相関係数	.56**	.88***	.74***	.83***	.49*	.35	.75***	.70**
	指標(9)	指標(10)	指標(11)	指標(12)	指標(13)	指標(14)	指標(15)	
従来(平均)	3.21	3.00	3.64	3.45	3.27	3.23	3.32	
ルーブリック(平均)	3.00	2.63	3.59	3.41	3.18	3.23	3.50	
相関係数	.86***	.32	.33	.67***	.82***	.49*	.46*	

* p<.05, ** p<.01, *** p<.001

５．考 察

平均値の算出の結果、(1) 利用者との関係作りができる (5) 介護職員の役割がわかる (6) 自己の役割を自覚して、他の職種と協働できる（8）長期目標・短期目標を適切に設定し、介護計画が立てられる（10）施設が地域に果たしている役割がわかる、の 4 項目に平均値の 0.22 以上の差があった。これらの平均値は全てルーブリック評価指標案を用いた方が低い値になっていることから、この 4 項目は評価指標を用いることによって評価が低く変更されたことが明らかになった。相関分析の結果は、従来通りの評価方法とルーブリック評価指標案を用いた評価方法間に有意な相関を示している項目は 12 項目であった。一方、相関の無い(6) 自己の役割を自覚して、他の職種と協働できる（10）施設が地域に果たしている役割がわかる(11)守秘義務を理解し、行動がとれる、の 3 項目については、実習指導者の評価視点と学校が提示する学習目標が一致していない可能性を示唆している。今後、さらに調査結果を精査し実用に向けて検討を重ねていきたい。